



発行: 墨田区(スポーツ・学習課)
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目23番20号
☎03-5608-6309 FAX 03-5608-6934
✉sportsgakusyu@city.sumida.lg.jp



花王ミュージアム

—人と暮らしを支える「清浄文化」と
花王の「よきモノづくり」の精神をひもとく—

【沿革】

花王ミュージアムは2006年10月、すみだ事業場(墨田区文花)に開設し、一般公開しております。創業以来、清浄文化や清浄生活の向上に深く関わってきた花王が、これまで収集した数々の史料を展示・公開し、清浄文化の移り変わりについて広く社内外にご紹介しています。あわせて、現在へ継承されてきた花王の創業者たちのメッセージや今日までの事業活動の歴史、そして、「よきモノづくり」から生まれた最新の製品などもご紹介しています。

【展示内容】

館内は、3つの展示ゾーンで構成されています。

①清浄文化史ゾーン

古代から現在に至る人々の暮らしを「清浄」という視点でたどり、各時代の入浴、洗たく、掃除、化粧などの清浄生活をご紹介します。ジオラマやタッチパネルを配置し、楽しみながら見学できます。

②花王の歴史ゾーン

1890年に「花王石鹼」を発売してから今日まで、「よきモノ



花王ミュージアム館内

づくり」によって豊かな生活文化の実現と産業界の発展に寄与してきた花王の足跡を当時の製品と広告やポスターと共にご紹介していきます。

③コミュニケーションプラザ

花王の「いま」をお伝えするこの空間では、最新の代表的な製品を展示しています。また機器を使って肌や髪の状態を測定したり、製品特長のしくみを体感できます。

【花王ミュージアムが伝えたいこと】

ここは清浄をテーマにした唯一のミュージアムです。

清浄とはまずは身がきれいになる...それが心の清らかさにつながる。

がり...わだかまりが無くなり、新たな発想につながり、最終的に、こころ豊かな毎日を送る事につながります。

『豊かな生活文化の実現』の出发点は正に清浄からはじまることに気がきます。

また、ここには創業者、長瀬富郎の考えが凝縮された遺言状が展示されており、仕事を通じて人間形成がなされ、倫理観・道徳心を重んじながら、実直な判断を積み重ねることによって、信用を得ることができると...、これらを一言でまとめると『天祐は常に道を正して待つべし』と解釈できます。このことは仕事をやる上で当たり前の事で、花王はこの当たり前の事を守り続け、清浄文化の向上に130年間貢献してきました。その歴史の「コマ」をここで確認することができます。

【墨田区とのかわり】

花王と墨田区とのかわりは1892年(明治25)本所区花町(現緑町)のろうそく工場からはじまります。1896年(明治29)向島須崎(現向島2丁目)にて石鹼工場が稼働(新宿工場から移転)。その後1902年(明治35)請地工場(現文花1丁目)に移転し500坪から2000坪に規模を拡大しながら操業。1923年(大正12)吾



吾妻町工場(昭和初期)

婦町工場(現すみだ事業場)に移転し8650坪の規模で石鹼以外にも多くの製品の製造に携わり、墨田区とは歴史的に深いつながりがあります。

(花王ミュージアム

館長 丸田誠一)

花王ミュージアム ご利用案内

【見学方法】 事前予約制、スタッフが館内を案内(無料)

【申込方法】 電話で、希望日の3ヶ月前から前日まで
先着順に受付

【見学人数】 1回につき5~60名(小学3年生以上)
※4名以下の場合は要相談

【見学時間】 10:00~11:30または14:00~15:30

【見学日】 土・日・祝日および会社休日を除く毎日

【所在地】 墨田区文花2-1-3

(最寄駅: 東武小村井駅 徒歩8分)

【電話】 03-5630-9004 (平日9:00~17:00)



や かけ ゆみ お 矢掛弓雄と 「隅田川叢誌」(上)

隅田川神社(堤通2丁目)といえ
ば知る人ぞ知る水神と船霊の二神
を祭る神社だ。国への改号申請が
通った明治6年(1873)6月よ
り現社号を正式とするが、江戸時
代までは概ね水神社で通った。旧
隅田村の鎮守だから、特に幾世代
かが近所に暮らしてきたというよ
うな家の人たちにとつてはお馴染
みの神社のはずだ。

実はこの神社、その興隆の歴史
を調べてみると、これが案外面白い。

隅田川神社というのは、どうや
ら江戸時代までは社家不在で、隅
田村の住人が別当寺(多聞寺)と共
に代々自力で維持していたものら
しい。小宮を置くばかりの簡素な
神社だったというのがたぶん本当
で、神社らしく拜殿が調うのは、
漸く19世紀に入って以降のこと
だったと思われる。

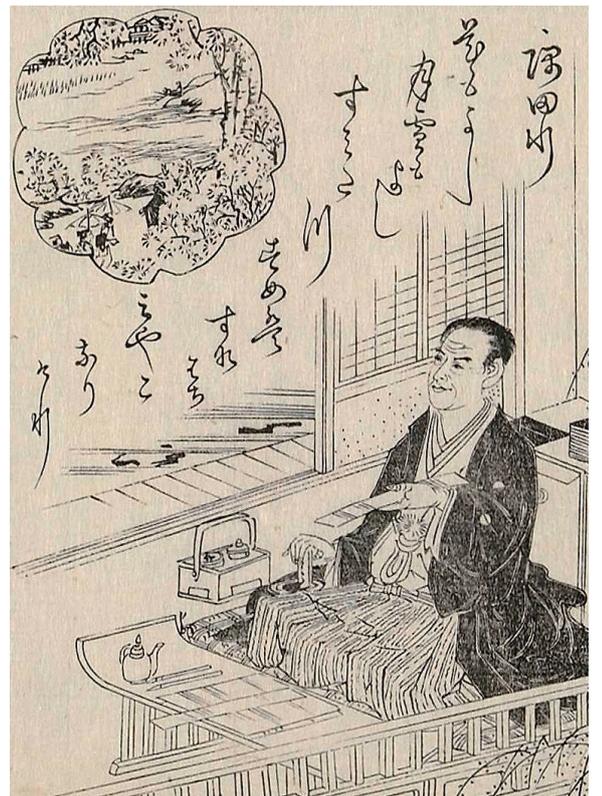
事実、この神社に伝来した史料
の大部分は明治期以降のもの。神
社に文書など諸資料の保管を可能
にするような機能が備わるように
なるのは、せいぜいこの頃のこと
とみてよい。

さて、江戸時代に遡るような古
い史料が無いなどと聞くと、ちよつ
と残念がる人があるかもしれないな

い。だが御安心あれ。明治元年
(1868)12月に来住し、翌年9
月に正式に神主に任ぜられた矢掛
弓雄という人が面白い史料を遺し
ている。それらを通して見えてき
たのが、この神主の意外な素性だ。
今回はこの辺りの事情をちよつと
かいつまんで披露しておこう。

まず、伝来史料は、彼が明治維
新という激変期の体験者であった
ことを教えてくれる。禁裏附(皇
居の警固等を担った幕府の役職)
の同心として皇居諸門の警固に当
たっていたこと、現場で蛤御門
の変勃発の報に接したこと、武田
耕雲齋率いる天狗党を鎮圧すべく
敦賀まで従軍するなどしていたこ
とが見えてくる。また明治以降に
ついて、維新期を志士として行
動した政治家や学者たちとの交流
を保っていたということが知られ
る。

そんなことから少し興味をもつ
て各地の史料を調べてみたのだが、
どうも矢掛は元来地元の人では
なく、備中国小田郡矢掛村(現岡
山県矢掛町)の人であつたらしい。
同村所在の矢掛神社の神主の子で
本姓は朝倉。数え18歳の時上京し、
京都在住の公家や国学者より有職



矢掛弓雄(『明治新撰百花風月集』舞鶴市所蔵)

故実や国学を学んだらしい。

その彼が在京中いつ頃か得た職
こそ禁裏附の同心であつた。事実
上の下級武士への転身だが、そう
した身分を入手することこそ、地
方出身者が自らの遊学期を実りあ
るものに変える重要な手段だつた。

皇居へ出入りする身分を得たこ
とで、矢掛は禁裏附について京都
近郊の御所関係施設を実見するこ
とができたし、皇居で行われる各
種の王の儀礼を目の当たりにする
ことができたのだ。攘夷祈願を目
的に天皇が將軍と共に行列を組ん
で賀茂社へ行幸するなどにはまさに
空前絶後の一大ページェントで
あつたが、矢掛はそうした特異な
場にも居合わせる事ができた。

さて、以上のような事どもが矢
掛弓雄という人物の略歴を構成す
る。伝来した諸史料の成立年代と
の照応性から、この人物が水神社
興隆の立役者であることはまず問
違いない。してみれば、旧隅田村
及び隅田川神社周辺の近代史は、
幕末に在京遊学した経験をもつ来
訪者との密接な関係を一局面に
もつて展開したものということに
なるはずだ。

明治初年の西国出身知識人の来
訪は、地域の歴史にいったいどの
ような影響を与えることとなつた
ろうか。次回はこうした事柄の究
明に努めよう。

(墨田区文化財保護指導員

中山 学)